

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「宇治拾遺物語」 絵仏師良秀」 問題

これも今は昔、絵仏師良秀と^①いふ^②あり^アけり。家の隣より火^③出^出で来て、風^④おしおほひて
^⑤せめ^イければ、^⑥逃げ出^出でて、大路へ^⑦出^出で^ウに^エけり。人の^⑧かか^オする仏も^⑨おはし^カけり。
また衣^⑩着^キぬ妻子なども、さながら内に^⑪あり^クけり。それも^⑫知ら^キず、ただ^⑬逃げ出^出
て^クたるをことにして、向かひのつらに^⑭立^テて^ケり。

^⑮見^ミれば、すでにわが家に^⑯移^シりて、煙、炎^⑰くゆり^コけるまで、おほかた向かひのつらに
^⑱立^タちて^⑲眺^サめ^サければ、「あさましきこと。」とて、人ども^⑳来^来と^㉑ぶらひ^シけれど、^㉒騒^{ソウ}が^スず。
「いかに。」と人^㉓言^{コト}ひ^セければ、向かひに^㉔立^タちて、家の^㉕焼^{ヤク}くるを^㉖見^ミて、^㉗うちうなづき
て、時々^㉘笑^シひ^ッけり。「あはれ、^㉙し^シつるせうとくかな。年ごろはわるく^㉚かき^チけるもの
かな」と^㉛言^{コト}ふ時に、とぶらひに^㉜来^来たる者ども、「こはいかに、かくては^㉝立^タち^㉞たまへ^テる
ぞ。あさましきことかな。物の^㉟つき^{ツキ}たまへ^トるか。」と^㊱言^{コト}ひ^ナければ、「なんでふ物の^㊲つ^ツく
べきぞ。年ごろ不動尊の火炎を悪しく^㊳かき^ヌける^ネなり。今^㊴見^ミれば、かうこそ^㊵燃^ネえ
ノ^ノけれど、^㊶心得^ハつる^ヒなり。これこそせうとくよ。この道を^㊷立^タてて世に^㊸あら^ッんには、
仏だによく^㊹かきたてまつらば、百千の家も^㊺出^出で来^ホへな^ホん。わたうたちこそ、させる能も
^㊻おはせ^マねば、物を^㊼をし^シみたまへ。」と^㊽言^{コト}ひて、^㊾あざ笑^{アザ}ひてこそ^㊿立^タて^ミり^ムけれ。

そののち^メにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々^ニ愛^{アイ}で合^ヘり。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「宇治拾遺物語」 「絵仏師良秀」 問題

これも今は昔、絵仏師良秀と^①いふ^②あり^アけり。家の隣より火^③出で来て、風^④おしおほひて
マ下二用 過去 ダ下二用 完了 過去 カ四用 使役 サ変用 過去 ハ四用

せめいければ、^⑤逃げ出でて、大路へ^⑦出で^ウに^エけり。人の^⑧かか^オする仏も^⑨おはし^カけり。
カ上一用 打消 ラ変用 過去 ラ四用 打消 ダ下二用

また衣^⑩着^キぬ妻子なども、さながら内に^⑪あり^クけり。それも^⑫知ら^キず、ただ^⑬逃げ出で
完了 タ四用 完了 ラ四用 打消 ダ下二用

クたるをことにして、向かひのつらに^⑭立^テけり。
マ上一用 ラ四用 過去 ラ四用 過去

^⑮見れば、すでにわが家に^⑯移りて、煙、炎^⑰くゆり^コけるまで、おほかた向かひのつらに
タ四用 マ下二用 過去 カ変用 ハ四用 過去 ガ四用 打消 ⑮ 立ちて ⑯ 眺めサければ、「あさましきこと。」とて、人ども^⑰来^⑰とぶらひ^シけれど、^⑲騒が^ズず。
タ四用 マ下二用 過去 カ下二用 マ上一用 カ四用

「いかに。」と人^⑳言ひ^セければ、向かひに^㉑立ちて、家の^㉒焼くるを^㉓見^テて、^㉔うちうなづき
ハ四用 過去 タ四用 カ下二用 マ上一用 カ四用 サ変用 完了 ハ四用 過去 カ四用 詠嘆

て、時々^㉕笑ひ^ッけり。「あはれ、^㉖シ^タつるせうとくかな。年ごろはわるく^㉗かき^チけるもの
ハ四用 カ変用 存続 タ四用 ハ四用 存続 ハ四用 カ四用 詠嘆

かな」と言ふ時に、とぶらひに^㉘来^ッたる者ども、「こはいかに、かくては^㉙立^チたまへ^テる
ハ四用 カ四用 ハ四用 存続 ハ四用 過去 カ四用 存続 カ四終

ぞ。あさましきことかな。物の^㉚つき^㉛たまへ^トるか。」と^㉜言ひ^ナければ、「なんでふ物の^㉝つく
当然 カ四用 詠嘆 断定 マ上一用 ヤ下二用

ニべきぞ。年ごろ不動尊の火炎を悪しく^㉞かき^ヌける^ネなり。今^㉟見れば、かうこそ^㊱燃え
詠嘆 ア下二用 完了 断定 タ四用 ラ変用 仮定 カ四用

ノけれど、^㊲心得^ハつる^ヒなり。これこそせうとくよ。この道を^㊳立^テて世に^㊴あら^フんには、
カ四用 カ変用 強意 推量 ハ四用 タ四用 存続 過去

仏だによく^㊵かきたてまつらば、百千の家も^㊶出^デ来^ヘな^ホん。わたうたちこそ、させる能も
サ変用 打消 マ四用 ハ四用 タ四用 存続 過去

おはせ^マねば、物をも^㊷をし^ミたまへ。」と^㊸言ひて、^㊹あざ笑ひてこそ^㊺立^テミ^リム^ケれ。
断定 ダ下二用 存続

そののち^メにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々^ニ愛^デ合^ヘモリ。
断定 ダ下二用 存続